

② 取組の方向性

西成区の人口は、現在のまま推移すると、2045年には約5.9万人まで大幅に減少すると予想されている。

一方で、現状と同程度の人口を維持するためには、①現在顕著な増加がみられる20~24歳の増加率が維持され、さらにプラス100人の増、②20~24歳を除く64歳までの階級で10%増、③65歳以上については現状と同程度の減少率、として推計した場合、約10.7万人となり、現状と同程度の人口を維持することとなる。

- 2020年の西成区の人口は、住民基本台帳人口：105,583人、国勢調査：106,111人となっている。
- 現状の社会増減、自然増減のまま推移したと過程した場合、2045年度の人口は約6万人と推計された。
- 一方で、現在転入超過となっている若者世代が「さらに100人プラス」、ほかの年代でも「今より10%プラス」となれば、現在と同程度の人口（10.7万人）を維持できると推計される。



（住民基本台帳人口の年度末時点のデータを使用）

第三期西成特区構想では、現在の人口動態から見た西成区の「強み」を伸ばし、「弱み」を補う取組を展開する。

「強みの強化」

(交流人口の増加) 西成区に流入してくる人をさらに増やす

西成区の強みとして、10代後半から20代前半の単身者層が増加傾向にあり、その勢いは年々増し、現在も衰えていない点があげられる。

現在増加傾向にある若者世代をさらに増やすこと、西成区に定着してもらい、「若者」が「子育て世帯」へと移り変わることで「子育て世帯」を増やし、「子育て世帯」がさらなる「子育て世帯」を引き寄せることで、西成特区構想のめざすところである「若者や子育て世帯の流入促進」の達成をめざしていく。

現在は、西成区に対して先入観がない層が、交通至便な点や家賃水準の低さ、生活に密着した商店街が多く存在し生活がしやすいという魅力的な側面を評価して流入している状況と考えられる。

現在の限定的な層に選択されるだけではなく、より広い層へとターゲットを拡大するために、まずは現在増加傾向にある10代後半から20代前半の単身者層をさらに増やす取組が必要であり、西成区に流入している層が、真に西成区のどのような点に引き付けられており、それをどのように一般的な層へ広げていくか分析のうえ、流入者を受け入れるハードに対する仕掛けや、より広い層から選ばれるためのソフトに対する仕掛けを戦略的に講じ、目標の達成をめざしていく。

(困難層への対応) 福祉やセーフティーネットで受け止め、社会の一員として活躍する

西成区、特にあいりん地域は、ひとを呼び込むことで地域の経済を動かしてきた場所である。これまで、「しごと」を求めて多くの労働者が集まり、労働者の需要を支えるための様々なサービスが提供されてきた。

時代が移り変わり、介護・福祉需要が高まるにつれ、地域で提供してきたサービスも変遷し、これまでの労働者のまちは、福祉のまちに変化を遂げ、これまで地域で培われてきた福祉サービスやセーフティーネットを頼りに、あいりん地域を中心として、一定数の困難をかかえた層が西成区に流入している状況である。

新たな流入者である困難層は、仕事を求めて流入してきた労働者層のように広く地域全体の経済に好循環を生み出すことはなく、西成区の負のイメージの一因とみられる向きもある。

今後、様々な取組が実を結び、人口の流入が増加した場合でも、あいりん地域の福祉サービスを求めて困難層が一定数流れ込んでくるものと思われ、流入者が増えるに従い、区全体に広がることも考えられる。

西成特区構想では、困難層を困難層として受け入れるだけではなく、地域の人的資源として活躍してもらえるよう「西成版サービスハブ運営・構築事業」などを実施しており、地域との融和、ひいては「チャレンジ・再チャレンジのまち」として、西成区のイメージの上書きを図っているところである。

今後、これまでの取組の成果を踏まえ、広く区全体で事業を展開し、新たな西成のイメージの定着を広げていく。

「弱みの克服」

(交流人口の定住化) 西成区からの転出を抑えるための取組

人口動態から見ると、西成区の弱みは「子育て世帯の流出」である。特に、小学校就学時の転出が顕著であり、子どもの就学を機会に、区外へ転出しているものと思われる。

これらの層が、区外に何を求めて転出しているのかを把握し、今の西成区に欠けるその要素を補うことで、いま流入している若者世代がこの先も引き続き子育て世帯として区内にとどまるよう環境整備を図っていくとともに、西成区に良好な子育て環境があるというイメージが区の内外に広がっていくよう、「実際に変える」、「イメージを変える」取組を展開していく。

「まちの活性化・イメージアップ」
「若者や子育て世帯の流入促進」

第三期西成特区構想では、

実際に人を増やす施策

にとりかかる。

実際に増やす

交流人口の増加
(若者の流入促進)

交流人口の定住化
(子育て世帯の定住)

困難層への対応

具体的には、

「交流人口の増加」

「交流人口の定住」

「困難層への対応」

により人口減少に
歯止めをかける。

達成に向け、8つの視点のもと

「実際に変える」

「イメージを変える」

取組を実施する。

実際に変える

実際に他よりマイナスな点を改善する

- ・不法投棄、違法薬物 etc
- ・子どもの抱える課題（学力、生活改善）
- ・福祉的な課題

イメージを変える

実際と異なるイメージを上書きする

- ・治安が悪い、暴動のイメージ
- ・子育て環境に適さない
- ・労働者と生活保護のまち

2.福祉

1.貧困

8.まち
づくり

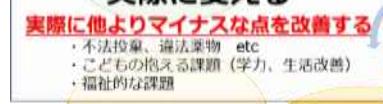
7.観光
にぎわい

5.子育て

6.教育

3.医療

4.安全
安心



第三期西成特区構想の目標達成に向けた取組イメージ

(3) 分野別事業ごとの実施方針

あいりん地域での取組については、後戻りすることができないよう継続しながら、第一期、第二期とあいりん地域を中心に取り組み、環境改善やイメージアップにつながった分野については、西成区全域での展開を念頭に事業スキームの構築を図っていく。また、事業を再構築し、新たな目標に向かって取組を進めていく分野、第三期から事業を本格化させる分野については、この先の進むべき方向性をしっかりと定め、取り組んでいく。

取組にあたっては、あいりん地域で培ってきたボトムアップ方式の考え方を活かしながら、地域ごとで議論を重ね、課題解決へ向けて取り組んでいく。

① 短期集中的対策など

ア 貧困
イ 福祉
ウ 医療
エ 安全安心

- 各分野とも、あいりん地域では成果を上げている。区全体へ展開することで西成区全体の環境改善、イメージアップにつながると考えられることから、あいりん地域での対策は継続するとともに、これまでの取組の成果を西成区全体に展開できるよう、事業スキームの構築を図っていく。

ア 貧困

この分野は、「野宿生活者、高齢日雇労働者の自立・就労支援」を目的として、各種の取組を実施してきた。

主な取組としては、「居場所づくり」や「自立に向けた寄り添い支援」、「就労機会の拡大」に取り組み、順調に成果を上げている。

「居場所づくり」や「自立に向けた寄り添い支援」については、あいりん地域以外での実施により、「西成区のイメージ」の刷新にもつながるものと考えられることから、あいりん地域での取組は継続しながら、区全体に展開できるよう、事業スキームの構築を図っていく。

継続した支援と区全体への展開

この分野では、野宿生活者の自立支援に向けた事業を展開し、着実に居宅生活への移行を進めてきた。現在も、あいりん地域を中心として平和的解決をめざし、継続して取り組んでいるところである。

一方で、区内の他の地域にも貧困に由来する課題がみられることから、あいりん地域での成果を活用し、課題解決につながるよう事業の構築を行っていく。

イ 福祉

この分野は、「地域内の福祉課題の解決、社会的資源の活用」を目的として、各種の取組を実施してきた。

主な取組としては、若年困難層を対象にした「自立に向けた寄り添い支援」、「就労機会の拡大」など再チャレンジに向けた取組のほか、「地域の福祉関係者のネットワーク強化」に取り組み、順調に成果を上げている。

貧困の取組と同様に、これまであいりん地域に主眼を置いて取組を実施してきたが、第三期ではあいりん地域以外での実施により、「西成区のイメージ」の刷新にもつながるものと考えられることから、あいりん地域での取組は継続しながら、区全体に展開できるよう、事業スキームの構築を図っていく。

ことさらに不安定層を西成区に呼び込むのではなく、地域が有する「社会的包摂力」と「地の利」を活かし、不安定層を「再チャレンジ」へと導くことが「労働と福祉」という資源を抱えるこまちのミッションともいえる。